

# テレネ

テレネの木はね、サハラ砂漠にはえている一本の有名な木で  
世界で一番となりの木と離れている木なんだ  
何才はわからないけれど  
年をとっているということだけは確かだ

砂漠を旅する人はこの木を目印にしているし  
そばを通る時は必ず挨拶ををするし  
持っている飲み水を必ずわけてあげるんだ

それでもほとんどひとりぼっちだから僕は聞いたことがある  
「さびしくない？」  
するとテレネの木は優しく言った  
「私は森を知りません、生まれてからずっと一人でしたから…  
でも、森の中の木は仲間にかこまれているから  
絶対にさびしくないのでしょうか  
そんなこともないと思いますよ」

僕はそんなテレネの木が好きで、  
その気高さにあこがれてずっと寄り添っていたかった

そしてその後、僕が立ち去って何年かしてテレネの木は  
車にぶつけられて折れてしまったということを知った

僕は悲しくて泣いた、そして思い出してはまた泣いた

でもそれから僕はなにある度に（テレネの木だったら  
こんな時なんて言うかな）と考えるようになった  
大切な人を失った時、そんなふうに考えると  
ほんの少しさびしくなくなるんだ

## ニジュール物語

発行 一般社団法人コモン・ニジュール  
著者 フクダヒデコ  
絵 星野登志子

©comment-niger 2009 無断での複写・転載・引用を禁じます

※ニジュール物語より抜粋